

ご意見

「健康くさつ21（第2次）」にかかる進捗状況、及び平成29年度～令和3年度の経過について

- 生活習慣は、小学生でほとんど確立しているため、小学生よりも年齢の小さい世代へのアプローチが必要。
- スマートフォン等の普及により、子どもが昔と比べて情報を多くもっていると考えられる。正しい知識を普及させ、世代別の対象に応じた興味をひく啓発活動が必要。
- 健康づくりに関する標語やスローガンを募集する等の取組を行い、保育所や幼稚園等とさらなる連携に期待する。
- 将来的に湖南圏域は、75歳以上の人口が急増することが見込まれることから、健康的な壮年期の増加に向けた取組を行っていく必要がある。若者世代や働く世代は無関心層が多いことが課題であるため、企業や大学等との連携が必要。

「第3次草津市食育推進計画」にかかる進捗状況について

- 事業所と連携した健康づくりに関しては、事業所が参加しやすい仕組みづくりが重要である。事業所に対しアンケート調査をすることで、市との連携継続や取組の難しさ等の課題を把握し、事業に反映させてほしい。

今後の方向性について

- 子ども、若者世代、働く世代への健康に関するアプローチの難しさが課題であるため、産官学を含む、他の団体との連携を強化し、事業や取組を検討し、PDCAサイクルを継続的に実施してまいります。
- 引き続き、市のSNS等を活用し、正しい情報や健康づくりに興味をもってもらえるような啓発内容等を、より広く、多くの市民に伝えられるように工夫してまいります。

②保健推進部会

ご意見

歯科啓発方法について（参考資料② P2）

- ・家族で守ろうお口の健康の配布の仕方について、草津川で、ラジオ体操などを行っているコミュニティがあり、ウォーキングをしている人がいるので、そういう機会に配布を行ってみたらよい。
- ・イベント等にチラシを配布し幅広い世代に歯科健診の重要性を周知するとよい。
- ・働き盛りや子育て世代はご自身の事が後回しになるので、「ご自身の体（お口）を大切に」と啓発を行うのはどうか。

健康増進課 今後の方向性について

- ・幅広い世代に啓発できるよう他の事業と合わせて活動することやSNS等を活用し、働く世代や子育て世代の方に対しての啓発として、「ご自身の体（お口）の大切さ」をより強調させ啓発に取り組んでまいります。

ご意見

仕上げ磨きの状況について（参考資料② P4）

- ・保護者には仕上げ磨きの大切さと、必要な時期を具体的に伝えるとよい。3歳6か月で寝かせ磨きの指導の機会が終わると、保護者の日々の仕上げ磨きをすることの意識が薄れている状況と思われる。

多数う歯保有児への取組みについて（参考資料② P6）

- ・経済状況、ワクチン接種状況など背景を分析検討してほしい。

子育て相談センター 今後の方向性について

- ・保護者への仕上げ磨きの大切さの伝え方は、今後も歯科医師会と連携し啓発をしていきます。多数う歯児への対応などは、課をまたいで連携することを検討していきます。

②保健推進部会

ご意見

歯科定期健診の啓発方法について（参考資料② P8）

- 健康な高齢者に口の大切さをどう啓発をするか。
- 後期高齢者の年1回以上歯科健診者のうち、半分程の歯科健診に行っていない人には何かアピールはしているのか。
- 誤嚥性肺炎で、年度中に死亡が多く衝撃的だった。一般の方に定期受診の大切さは伝わっていない。何もなくても健診、かかりつけ歯科医を全年齢持つアプローチをしてもらいたい。

「草津歯・口からこんにちば体操」の案内について（参考資料② P8）

- デイサービスの方には、「草津歯・口からこんにちば体操」の案内はしているのか。



長寿いきがい課 今後の方向性について

- ケアマネジャーやサービス事業所と情報共有し健康づくりの現状把握に努めてまいります。「いきいき百歳体操」や「草津歯・口からこんにちば体操」の実施団体や健康大学など元気な高齢者が参加する教室で歯科啓発をしたり、病気を持つ方に対して、薬局で歯科啓発のチラシを配布することを検討している。元気な高齢者や後期高齢者歯科健診の未受診者に対して、今後どのようにアプローチしていくか検討する。

③健康増進部会

ご意見

糖尿病重症化予防について

- 市が医師会にもっとアプローチをすると対象の方は増えるかもしれない。
- 保健指導の希望者は少ないが丁寧にに関わりながら今後につなげてほしい。
- 通知だけでなく訪問することはよいと思う。
- 自分の状態を自覚できるようなインパクトのあるもので広報等の啓発するとよい。
- 健診の時に放っておくと重症化することを伝え、受診しなければいけないと思わせるようなパンフレットを配布するとよい。



今後の方向性について

- 行政と医療機関が連携していけるように、医療機関に糖尿病性腎症重症化予防の取組の周知を丁寧に行い、また今年度をもとに次年度に向けての保健指導の仕組みづくりを検討します。
- 対象者に対しては、治療の必要性や病気が重症化することによる影響を自分事として捉えられるような情報提供をすることで医療受診や保健指導につなげ、腎機能の維持と透析治療の遅延を目指します。